

LESSON 34

ご提示いただいたヒヤリハット台帳の記録（全41件）を、ハインリッヒの法則に基づいて分析します。

（※ハインリッヒの法則の「1件の重大事故の背後には29件の軽微な事故があり、その背景には300件の異常（ヒヤリハット）が存在する」という定義と具体的な比率については、ソース外の一般的な知識に基づいています。）

1. 台帳における事故・ヒヤリハットの発生状況 台帳に記載されている事象を分類すると以下のようになります。

- ・ 重大事故（重傷・死亡等）：0件
- ・ 軽微な事故（負傷・体調不良有）：3件（2/9の軽傷、4/24の軽度体調不良、7/14の軽度熱中症）
- ・ ヒヤリハット（負傷無）：38件

2. ハインリッヒの法則に基づく比率分析 今回のデータでは、軽微な事故（3件）と無傷のヒヤリハット（38件）の比率が「1：約12.7」となっています。これは、ハインリッヒの法則における軽微な事故とヒヤリハットの比率「29：300（1：約10.3）」に非常に近いペースで発生していることを示しています。現在は重大事故が0件であるものの、法則に当てはめると、今後ヒヤリハットや軽微な事故がこのまま蓄積していけば、近い将来「1件の重大事故」が発生する確率が極めて高い状態であると評価できます。

3. 重大事故に直結し得る「重大度3」の事案 無傷のヒヤリハットとして処理されている38件の中にも、結果的に無事だっただけで、一歩間違えれば重大事故（頂点の1件）になり得た「重大度3」の事案が5件発生しています。

- ・ 足場板の固定ピン未挿入による乗り上げ（墜落リスク）
- ・ クレーン旋回時の誘導員不在による接触寸前（重機接触リスク）
- ・ 型枠支保工の締め付けボルト不足での打設開始（倒壊リスク）
- ・ 強風予報時の足場養生ネット増設指示の伝達漏れ（倒壊・資材飛散リスク）
- ・ アース接続忘れのままの試通電（感電リスク）

4. 分析に基づく今後の対策への提言 上記の重大度3の事案を含め、ヒヤリハットの根本原因には「確認不足」「連絡不足」「手順違反」が目立っています。また、一部の事案（分電盤の施錠ルールの未周知、立入禁止表示の未復旧など）は「未対策」のまま放置されています。重大事故を未然に防ぐためには、これら日々のヒヤリハットを軽視せず、作業前点検や声かけ（連絡体制）の強化といった根本的な安全管理ルールを現場全体で再徹底することが急務です。

さらに深掘りして、発生している根本原因の件数ごとの集計や、特定の作業種別（鉄筋工事や足場組立など）に絞った傾向の分析も行いましょうか？